
2021 年度（令和 3 年度）採用

日本学術振興会特別研究員 申請の手引き



**中央大学 学事部研究助成課
研究支援室**

目次

1. 基本事項（2021年度採用の場合）・・・・・・・・・・・・・1
2. 申請から採用までの流れ・・・・・・・・・・・・・4
3. 審査のしくみ・・・・・・・・・・・・・6
4. 申請書について・・・・・・・・・・・・・9
5. チェックリスト・・・・・・・・・・・・・20
6. その他・・・・・・・・・・・・・21

1 基本事項(2021 年度採用の場合)

I. 特別研究員事業(通称：学振)とは

優れた若手研究者に自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。

採用されると、研究奨励金(20万円以上/月の生活費)、特別研究員奨励費(上限150万円/年の研究費)を受給することができます。

対象分野：人文学、社会科学および自然科学の全分野

II. 採用区分と申請資格

【特別研究員 DC1】大学院博士課程在学者

(採用予定数：700名程度)

年齢	制限なし	採用期間	3年間	研究奨励金	20万円/月
申請資格	2021年度の4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者(外国人も含む) ①区分制の博士課程後期第1年次相当(在学月数12ヶ月未満)に在学する者 ②一貫制の博士課程第3年次相当(在学月数24ヶ月以上36ヶ月未満)に在学する者 ③後期3年の課程のみの博士課程第1年次相当(在学月数12ヶ月未満)に在学する者 ④医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制の博士課程第2年次相当(在学月数12ヶ月以上24ヶ月未満)に在学する者 ※①～③において、採用年度の4月に博士課程後期等に進学する予定の者を含む。				

【特別研究員 DC2】大学院博士課程在学者

(採用予定数：1,100名程度)

年齢	制限なし	採用期間	2年間	研究奨励金	20万円/月
申請資格	2021年度の4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者(外国人も含む) ①区分制の博士課程後期第2年次相当(在学月数12ヶ月以上36ヶ月未満)に在学する者 ②一貫制の博士課程第4年次相当(在学月数36ヶ月以上60ヶ月未満)に在学する者 ③後期3年の課程のみの博士課程第2年次相当(在学月数12ヶ月以上36ヶ月未満)に在学する者 ④医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制の博士課程第3年次相当(在学月数24ヶ月以上48ヶ月未満)に在学する者				

1 基本事項(2021 年度採用の場合)

【特別研究員 PD】博士の学位取得者

(採用予定数: 350 名程度)

年齢	制限なし	採用期間	3 年間	研究奨励金	36.2 万円/月
学位	2021 年度の 4 月 1 日現在、博士の学位を取得後 5 年未満の者。 (申請時においては、見込みでも良い)				
受入研究機関	<p>受入研究機関は大学院在学当時の所属研究機関（修士課程として取り扱われる大学院博士課程前期は含まない）以外の大学等研究機関（以下「出身研究機関」という。）を選定すること（以下「研究機関移動」という。）</p> <p>注：特別研究員等審査会の判定により出身研究機関に関する特例措置を例外的に認めることがあるので、特例措置を希望する者は「特例措置希望理由書」（様式別紙）を添付すること。</p> <p>注：出身研究機関は、博士の学位を取得する予定または博士の学位を取得した研究機関。</p> <p>※ H P に申請資格のガイドライン公開中 https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa.html</p>				
受入研究者	大学院博士課程在学当時の学籍上の研究指導者以外を選定すること				
国籍	日本国籍を持つ者、または日本に永住を許可されている外国人				

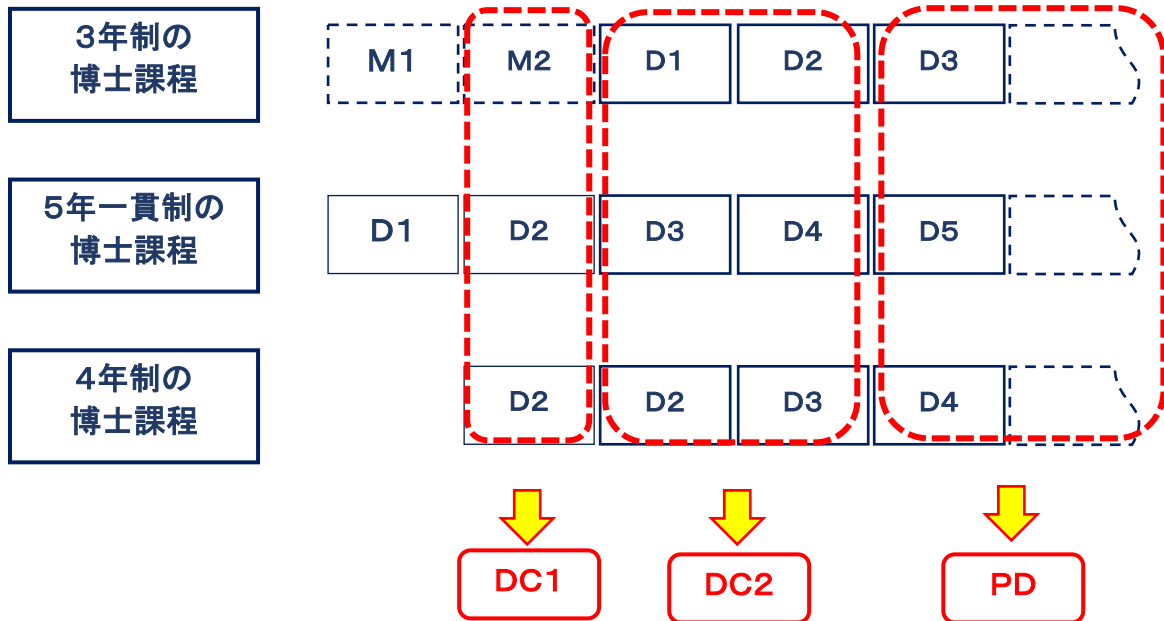
【特別研究員 RPD】出産育児による研究中断者の復帰支縁

(採用予定数: 75 名程度)

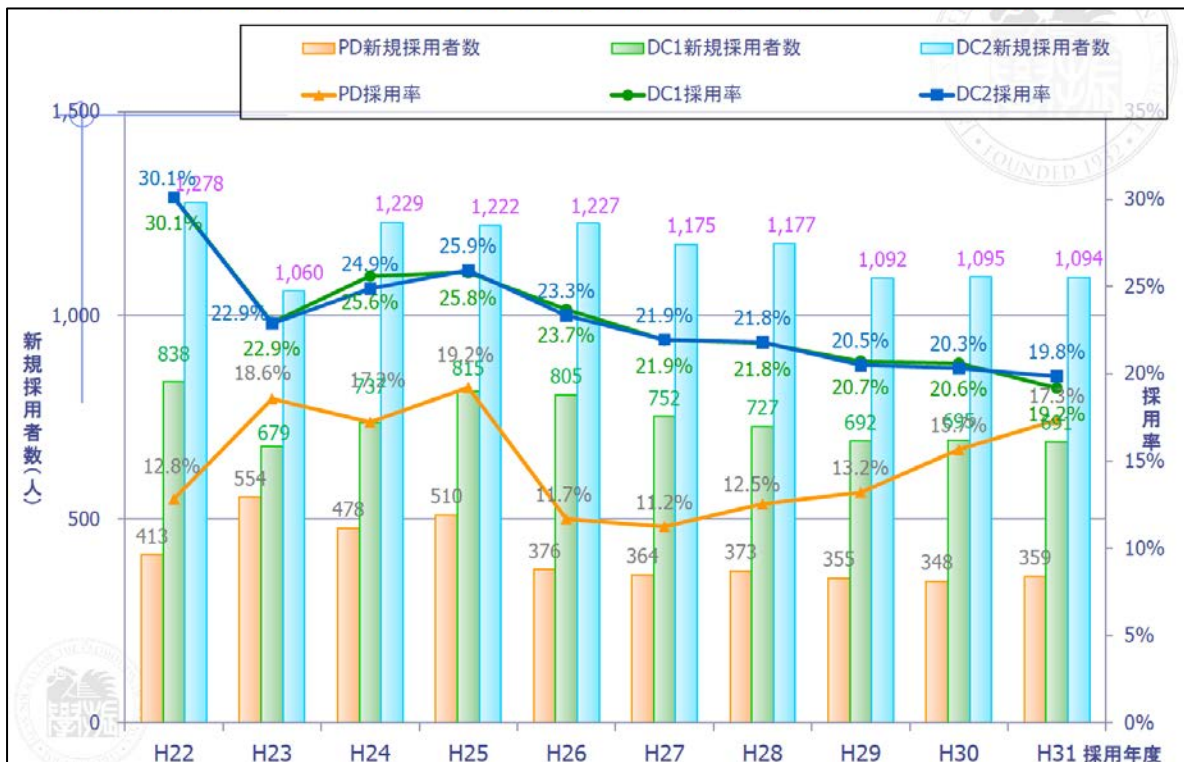
年齢	制限なし	採用期間	3 年間	研究奨励金	36.2 万円/月
学位	2021 年度の 4 月 1 日現在、博士の学位を取得している者。 (申請時においては、見込みでも良い)				
受入研究機関	受入研究機関は、大学院在学当時の所属研究機関以外の大学等研究機関を選定することを推奨				
研究中断	次のいずれかに該当する者				
	<p>① 2021 年度 4 月 1 日時点で未就学児を養育しており、その子の出産育児のため、2013 年 10 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日の間に、3 ヶ月以上研究活動を中断した者</p> <p>② 出産または疾病や障害のある子を養育したため、2015 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日の間に、3 ヶ月以上研究活動を中断した者</p>				
国籍	日本国籍を持つ者、または日本に永住を許可されている外国人				

1 基本事項(2021 年度採用の場合)

申請時の在学年次と申請資格 (イメージ)

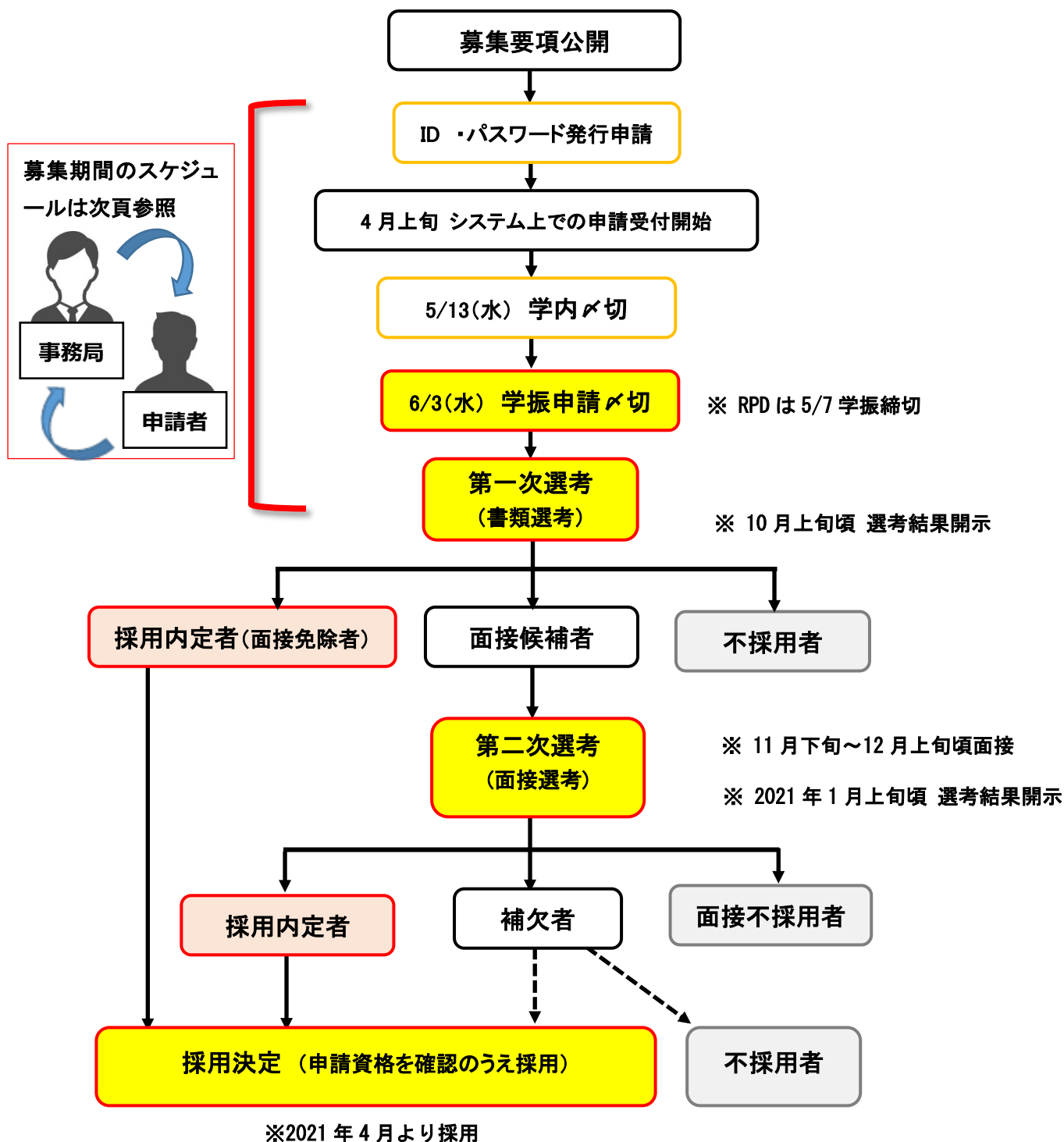


新規採用者数と採用人数の推移



令和3年度(2021年度)採用分特別研究員及び海外特別研究員募集等に関する説明会資料より

2.申請から採用までのながれ



2.申請から採用までのながれ

1. 電子申請用 ID・パスワード発行申請書を**研究助成課**へ提出

※発行申請書（Excel）をメール添付で提出。

研究助成課より ID・パスワードを通知。

申請書：<https://www.chuo-u.ac.jp/research/rd/grant/news/2020/02/47685/>



2. 電子申請システムにログインし申請書を作成

（システムは4月上旬より使用可能）

内容ファイル（Word）は下記より入手可能なのですぐに着手可能。

学振 HP：https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html

① 申請者情報		② 内容ファイル										
<p>(申請書情報) 令和2年度(2020年度)採用分 特別研究員-D-C 申請書 第 版</p> <p>① 申請資格 DC 受付番号</p> <p>② 審査会編・採審審査区分</p> <p>③ 審査審査区分</p> <p>④ 小区分名</p> <p>⑤ 小区分コード</p> <p>⑥ 専門分野</p> <p>⑦ 研究課題名</p> <p>1. 申請者情報等 (申請機関コード: ○○大学)</p> <table border="1"> <tr> <td>氏名</td> <td>(フリガナ) 登録名</td> <td>性別</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(フリガナ) 戸籍名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ローマ字表記</td> <td></td> </tr> </table> <p>⑧ 生年月日 元号(西暦)年 月 日生 (令和2(西暦2020)年4月1日現在 歳)</p>		氏名	(フリガナ) 登録名	性別		(フリガナ) 戸籍名			ローマ字表記		<p>(申請内容ファイル)</p> <p>2. 【現在までの研究状況】(図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の変更・追加は不可(以下同様))</p> <p>① これまでの研究の背景、問題点、解決策、研究目的、研究方法、特色と革新的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。</p> <p>② 申請書のおよまでの研究経歴及び得られた結果について、図表を含め図で説明したことを簡潔かつて説明してください。なお、これまでの研究経歴を論文あるいは学会等で発表している場合には、申請書が担当した部分を明らかにして、それらの内容を記述してください。</p>	
氏名	(フリガナ) 登録名	性別										
	(フリガナ) 戸籍名											
	ローマ字表記											

①申請者情報（電子申請システムで入力）

②内容ファイル（Word ファイル）

3. システムから事務局に提出（送信）

指導教員には③評価書を作成していただき、①②③をシステム上にアップロードして事務局に提出（送信）する



4. 事務局にて形式・内容チェック

事務局：不備や修正箇所があれば、申請者へ差し戻し

申請者：申請書を修正の上、再送信

※このやり取りを数回繰り返して、ブラッシュアップしていく



5. 事務局より学振へ提出

本学事務局でとりまとめて提出



3.審査のしくみ

1. 審査方法

審査は、我が国の第一線の研究者で構成される特別研究員等審査会において、書面審査及び面接審査により行われます。

書面審査は、申請者の審査区分に応じ、**1件の申請に対して審査会の専門委員6人により行われ**、書面審査の各評点に基づき、書面合議・面接審査区分別部会

(9分野)において書面合議審査が行われます。書面合議審査では、第一次採用内定者(面接選考免除者)、面接候補者、SPD面接候補者の選定が行われます。

面接は、書面合議・面接審査区分別部会において1人当たり10分間(SPDPは20分間)実施されます。

2. 主な審査方針 ※申請書は以下の方針を踏まえて作成しましょう。

DCは特に重視

- I. **学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。**
- II. 自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその**着想が優れていること**。また、**研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること**。
- III. **研究計画を遂行する能力が優れていること**。
- IV. 特別研究員-PDについては、博士課程での研究の単なる継続ではなく、新たな研究環境に身を置いて、自らの研究者としての能力を一層伸ばす意欲が見られること。
- V. 特別研究員-PDについては、やむを得ない事由がある場合を除き、大学院博士課程在学当時(修士課程として取り扱われる大学院博士課程前期は含まない)の所属大学等研究機関(出身研究機関)を受入研究機関に選定する者、及び大学院博士課程在学当時の学籍上の研究指導者を受入研究者に選定する者は**採用しない**。

3. 書面審査の評点

以下の3つの審査項目について、5段階(5:非常に優れている、4:優れている、3:良好である、2:普通である、1:見劣りする)の絶対評価が実施されます。

- ① 研究者としての資質
- ② 着想およびオリジナリティ
- ③ 研究遂行能力

DCは研究経験が少ないため、①を重視して評価。業績が少なくても、準備がしっかりできていることをアピール!

①～③の項目評価を踏まえ、総合的に研究者としての資質及び能力を判断したうえで、書面審査セット内での5段階の相対評価による総合評価が実施されます。

評点 5 (採用を強く推奨する)	: 10%
評点 4 (採用を推奨する)	: 20%
評点 3 (採用してもよい)	: 40%
評点 2 (採用に躊躇する)	: 20%
評点 1 (採用を推奨しない)	: 10%

6人の専門委員が個別に審査し、最終的には6人の総合評価の平均点を参考に合議される。

3.審査のしくみ

審査区分を選ぶ

審査は、申請者が申請時に選択した審査区分（小区分、書面審査区分、書面合議・面接審査区分で構成）に基づいて行われます。

◆審査区分表 確認頁（学振ホームページ）

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa-set.html

審査区分表（総表）

書面合議・面接審査区分：人文学	書面合議・面接審査区分：社会科学
書面審査区分11：思想、芸術およびその関連分野 小区分 01010 哲学および倫理学関連 01020 中国哲学、印度哲学および仏教学関連 01030 宗教学関連 01040 思想史関連 01050 美学および芸術論関連 01060 美術史関連 01070 芸術実践論関連 01080 科学社会学および科学技術史関連 90010 デザイン学関連	書面審査区分21：法学およびその関連分野 小区分 05010 基礎法学関連 05020 公法学関連 05030 国際法学関連 05040 社会法学関連 05050 刑事法学関連 05060 民事法学関連 05070 新領域法学関連
書面審査区分12：文学、言語学およびその関連分野 小区分 02010 日本文学関連 02020 中国文学関連 02030 英文学および英語圏文学関連 02040 ヨーロッパ文学関連 02050 文学一般関連 02060 言語学関連 02070 日本語学関連 02080 英語学関連 02090 日本語教育関連 02100 外国語教育関連 90020 図書館情報学および人文社会科学情報学関連	書面審査区分22：政治学およびその関連分野 小区分 06010 政治学関連 06020 国際関係論関連 80010 地域研究関連 80030 ジェンダー関連
書面審査区分13：歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野 小区分 03010 史学一般関連 03020 日本史関連 03030 アジア史およびアフリカ史関連 03040 ヨーロッパ史およびアメリカ史関連 03050 考古学関連 03060 文化財科学関連 03070 博物館学関連	書面審査区分23：経済学、経営学およびその関連分野 小区分 07010 理論経済学関連 07020 経済学説および経済思想関連 07030 経済統計関連 07040 経済政策関連 07050 公共経済および労働経済関連 07060 金融およびファイナンス関連 07070 経済史関連 07080 経営学関連
書面審査区分14：地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野 小区分 04010 地理学関連 04020 人文地理学関連 04030 文化人類学および民俗学関連 80010 地域研究関連 80020 観光学関連 80030 ジェンダー関連	書面審査区分24：社会学およびその関連分野 小区分 08010 社会学関連 08020 社会福祉学関連 08030 家政学および生活科学関連 80020 観光学関連 80030 ジェンダー関連
	書面審査区分25：教育学およびその関連分野 小区分 09010 教育学関連 09020 教育社会学関連 09030 子ども学および保育学関連 09040 教科教育学および初等中等教育学関連 09050 高等教育学関連 09060 特別支援教育関連 09070 教育工学関連

同じ小区分だが、書面審査区分が異なる = 審査員の専門分野が異なってくる

3.審査のしくみ

4. 書面審査セット

「書面審査セット」とは、書面審査を行うためのグループです。審査は、申請者の書面審査区分ごとに行いますが、適切な相対評価ができるように、**関連する審査グループを組み合わせることでグループ化したものが「書面審査セット」**です。このグループごとに6人の専門委員（審査員）を割り当てて審査を行います。

申請者は自身の申請書が**どのような分野とセットで審査されるかを意識**して申請書を作成する必要があります。

6人の中には、**自身の研究とは専門分野が異なる審査員が含まれている可能性**もあります。専門外の人にも理解されやすい申請書となるように工夫しましょう。

◆書面審査セット 確認頁（学振ホームページ）

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa-set.html

令和3年度(2021年度)採用分 特別研究員-DC1 書面審査セット

審査区分		書面審査セット
合議・面接	書面	
社会科学	21 法学およびその関連分野	社会科学1
	05010 基礎法学関連	
	05020 公法学関連	
	05030 国際法学関連	
	05040 社会法学関連	
	05050 刑事法学関連	
	05060 民事法学関連	
	05070 新領域法学関連	
	22 政治学およびその関連分野	社会科学3
	06010 政治学関連	
	06020 国際関係論関連	
	80010 地域研究関連	
	80030 ジェンダー関連	
	23 経済学、経営学およびその関連分野	
07010 理論経済学関連		
07020 経済学説および経済思想関連		
07030 経済統計関連		
07040 経済政策関連		
07050 公共経済および労働経済関連		
07060 金融およびファイナンス関連		
07070 経済史関連		
07080 経営学関連		
07090 商学関連		
07100 会計学関連		
80020 観光学関連		
24 社会学およびその関連分野		

例えば、小区分「経済政策関連」で申請する場合、書面セットは「社会学3」となり、経営学関連、会計学関連、商学関連等と同じ審査を受ける。



審査員

短い時間で数十件の申請書を読み、評価を行う。

自身の専門分野から遠い分野の申請書の評価することもある。



申請者

わかりやすい内容（専門用語の説明）、簡潔で具体的な文章、読みたいと思わせるレイアウトの工夫。

4. 申請書について

(申請書情報)		令和3年度採用分 特別研究員-D C 申請書		第 版
審査区分	① 申請資格	D C	受付番号	1~2頁はWEB入力です。 もれなく入力をしてください
	② 書面合議・面接審査区分			
	③ 書面審査区分			
	④ 小区分名			
	⑤ 小区分コード		⑥ 専門分野	
⑦ 研究課題名	和文で40字以内。研究の概要がわかるようなキーワードを含めて。			〇〇大学
1. 申請者情報等		(申請機関コード:)		
⑧ 氏名	(フリガナ) 登録名	JIS 第1、第2水準の文字を使用		
⑨ 学歴 (学部・修士)	1. 年 月 大学 学部 学科卒 2. 年 月 大学大学院修士課程入学 (研究科 専攻) 修士課程在籍者は 3. 年 月 大学大学院修士課程 (研究科 専攻) 「修了見込」まで入力			
⑩ 博士の状況	1. 入学年月：(西暦) 2021 年 4 月 編・転・再入学 入・進学見込 2. 編・転・再入学時の在学期間換算： 年 ヶ月 3. 大学院名：中央大学 4. 研究科名：〇〇学 5. 研究科種別：研究科 6. 専攻名：〇〇学専攻 7. 課程種別：博士課程(3年制) 8. 休学期間合計： 0 年 ヶ月 9. (西暦) 2021 年 4 月 1 日時点における博士在学期間累計： 0 年 ヶ月			
⑪ 研究・職歴等	1. 年 月 ~ 年 月 2.			
⑨学歴、⑩博士の状況、⑪研究・職歴等別紙：有				
⑫ 日本学生支援機構等奨学金貸与の有無		⑬ 外国人留学生に対する奨学金等受給の有無		

「有・無」を選択

申請者登録名

D C

4.申請書について

⑭博士の特記事項の有無	(博士の特記事項)			
	1～2頁はWEB入力です。 もれなく入力をしてください			
⑮現在の研究指導者	(フリガナ)氏名		職名	教授・准教授・専任講師など
		研究者番号		
	所属機関	〇〇大学		
	部局	「一覧」ボタンをクリックして「部局コード表」を参照のうえ入力。 該当するものがない場合は「9999」を選択して、テキスト入力	部局種別	研究科・学部など
	連絡先	評価書作成依頼メールの送信先になるので、正確に入力		
⑯採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名		職名	教授・准教授・専任講師など
		研究者番号		
	所属機関	〇〇大学		
	部局	「一覧」ボタンをクリックして「部局コード表」を参照のうえ入力。 該当するものがない場合は「9999」を選択して、テキスト入力	部局種別	研究科・学部など
⑰採用後の申請者所属研究科正式名	DC→〇〇研究科 PD→〇〇学部			

<申請内容ファイル>作成にあたっての注意事項と記入ポイント

■ 注意事項

- 10ポイント以上の文字で記入すること
- 日本語または英語で作成すること
- 誤字脱字、通し番号の付け間違いはないか、必ず確認すること
- 所定の様式を崩さないこと（頁や項目の追加、枠の大きさ変更、記入しない項目の省略等は不可）
- モノクロ印刷した時に不鮮明にならないこと（特に図表や画像は注意）
- 申請内容ファイルのアップロード後、必ずPDFをダウンロードして内容を確認すること

■ 記入ポイント

- 指示書きをよく読み、指示書きで求められていることに応えるように書く
- 審査員が「どこに何が書いてあるか」わかりやすいように書く
- 読みやすさの工夫（文字の配置や強調、一行あけるなどスペースの活用）
- わかりやすさの工夫（専門外の人でもわかる易しい言葉、言い回しの選択）
- 時間に余裕をもって書き、先生や友人など第三者に読んでもらう

申請者登録名

DC

4.申請書について

(申請内容ファイル)

- 2.【現在までの研究状況】(図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の変更・追加は不可(以下同様))
- ① これまでの研究の背景、問題点、解決方策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。
 - ② 申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について、問題点を含め①で記載したことと関連づけて説明してください。
なお、これまでの研究結果を論文あるいは学会等で発表している場合には、申請者が担当した部分を明らかにして、それらの内容を記述してください。

現在までの研究について記す項目
(学部・修士)

記入方法の例示 (指示書きに沿って、各項目についてもれなく記載すること)

① 【これまでの研究について】

■研究の背景

- これまでの研究の背景について、当該分野の重要文献を挙げて説明する
(客観性を持たせるために文献を引用する)
- 何がわかっていたのか、どういう潮流で研究が行われてきたのか

■問題点

- 背景を踏まえ何が問題なのか。
 - ・ ○○までは明らかになっているが、△△の視点が不足している(何故不足しているといえるのか)
 - ・ これまでは○○○を対象としており、△△は対象となっていない(何故なっていないのか理由)

■解決方策

- 背景と問題点とを関連させて、どのような解決方策が必要であるか。
- この○○の問題点をどうすれば解決できると考えたのか。その根拠は何か。

■研究目的・研究方法

- 研究目的
 - ・ 冒頭に本研究の目的(何をどのようにしてどこまで明らかにするのか)を簡潔に記載
- 研究方法
 - ・ 前述の目的を達成するために、具体的に何をするのか。どんな方法・手順でしたのか。研究方法、手法名を挙げて記載する(定量法、定性法、○○法、等)。

■特色と独創的な点

- 先行研究と比べて、本研究の位置づけと意義(新規性やオリジナリティ)は何か。
- 本研究の今までにない切り口や着眼点は何か
- この目的を達成することで、どのような学術的貢献や社会への還元を目指すのか

② 【これまでの研究経過及び得られた結果について】

■研究経過及び得られた結果

- これまでの研究で何が結論づけられ、何が結論に至らなかったのか
- 「浮かび上がった問題点」は何か
- 図や表を効果的に使用する(モノクロで審査員に配布されるので、モノクロでも読めるように)

■成果の発表

- 論文、紀要、学会発表など、いつ何を、何を明らかにしたのかを具体的に記載する。
(【研究遂行能力】に記載した業績の通し番号を付しても良い。例：～～を明らかにした(業績1))
- 業績に記載できない業績もここでアピールする(学部時代の成果や投稿中のものなど)

申請者登録名 中央 太郎

4. 申請書について

(現在までの研究状況の続き)

項目分けは参考です。
指示書きをよく読み、求められている項目をもれなく、何がどこに書いてあるのか審査員にわかりやすいように記載することが重要です。

主な審査方針Ⅱ：
自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること

3. 【これからの研究計画】

(1) 研究の背景

これからの研究計画の背景、問題点、解決すべき点、着想に至った経緯等について参考文献を挙げて記入してください。

これからの研究について記す項目
(採用期間中(博士))

記入方法の例示 (指示書きに沿って、各項目についてもれなく記載すること)

- これからの研究計画の背景
 - 参考文献などをあげて具体的にこれまでの研究で解決した点、未解決である点を鑑みて未解決問題の解決がなぜ重要なのか
- 問題点
 - 背景を踏まえ何が未解決問題なのか。
- 解決すべき点
 - どうすればその未解決問題を解決できると考えたのか
- 着想に至った経緯
 - 何にヒントを得たか、これまでの研究から、これからは、何が重要か

主な審査方針Ⅱ：
自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること

申請者登録名 中央 太郎

4.申請書について

(2) 研究目的・内容 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。)

- ① 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入してください。
- ③ 所属研究室の研究との関連において、申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ④ 研究計画の期間中に異なった研究機関(外国の研究機関等を含む。)において研究に従事することを予定している場合はその旨を記載してください。

これからの研究について記す項目
(採用期間中(博士))

記入方法の例示 (指示書きに沿って、各項目についてもれなく記載すること)

①-1【研究目的】

- 冒頭に本研究の目的(何をどのようにしてどこまで明らかにするのか)を簡潔に記載

①-2【研究方法・研究内容】

- 前述の目的を達成するために、具体的に何をするのか。どんな方法・手順でしたのか。研究方法、手法名を挙げて記載する(定量法、定性法、〇〇法、等)。
- 研究方法・手順をどのように遂行していくのか。
- 国際会議での発表、海外での調査・ヒアリングなどの予定があればアピール。

②【どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか】

- 前述の研究方法・内容によって、何をどこまで明らかにしようとするのか。

③【所属研究室の研究との関連において、申請者が担当する部分】

- 共同研究の場合、申請者の役割を明確に示す。

④【研究計画の期間中に異なった研究機関において研究に従事すること】

- 異なる研究機関での研究予定がある場合は、そこでの研究内容と本研究にもたらす効果を示す。

主な審査方針Ⅱ:

自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること

(3) 研究の特色・独創的な点

次の項目について記載してください。

- ① これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点
- ② 国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義
- ③ 本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

これからの研究について記す項目
(採用期間中(博士))

記入方法の例示 (指示書きに沿って、各項目についてもれなく記載すること)

①【先行研究等と比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点】

- 先行研究と比べて、本研究のオリジナリティや今までにない切り口や着眼点は何か。
→先行研究で不足している点(なぜ不足しているのかも)、明らかになっていない点(なぜ明らかになっていないのかも)。

②【国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義】

- 国内外の関連する研究と比べて、本研究の位置づけと意義は何か。
→国内外の関連する研究はどのようなものがあって、何を明らかにしているのか。他方、本研究はどのようなものであって、関連研究と比べてどのような意義があるのか。

③【本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し】

- 本研究を達成することで、どのような学術的貢献や社会への還元を目指すのか。
- さらに、将来的にどのような研究進展や波及効果が予想されるか。

主な審査方針Ⅱ:

研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること

申請者登録名 中央 太郎

4.申請書について

(研究の特色・独創的な点の続き)

(4) 研究計画

申請時点から採用までの準備状況を踏まえ、研究計画について記載してください。

これからの研究について記す項目
(採用期間中(博士))

記入方法の例示 (指示書きに沿って、各項目についてもれなく記載すること)

- 申請時点から採用までの準備状況
 - 採択前の予備的な研究について…採用されたときにスムーズに研究に取りかかるための準備をどう整えるか
 - 研究環境は整っているか…使用できる物的・人的リソース
- 1年目
 - 具体的に何をして、どのような結果を追求するのか、四半期単位等のスケジュールを示す。
 - 図表などを用いて計画を示しても良い
 - 成果発表の計画(論文投稿や学会発表の予定など)
- 2年目
 - 同上
- 3年目(DC1の場合)
 - 同上
- 予定通りに進まなかったときの対応

主な審査方針Ⅲ:
研究を遂行する能力が優れていること

4.申請書について

(研究計画の続き)

(5) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続が必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記述してください。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

学内、学外の規程や指針に則って研究を行っていること、個人情報が特定されないようにする具体的な方法が記載されていることが記載されていること、廃棄方法についても記載があると良い。なお、当該分野の学会の指針等も参照する。なお、該当しない場合は「本研究は〇〇なので該当しない」と明記すること。審査の対象となる。

記入方法の例示

本申請研究では、質問紙及びヒアリング調査を行う事から、個人情報については本学（〇〇学会）の指針に準ずる形で取り扱う。また被験者や実験協力者から測定した行動計測や個人情報などの記録情報は、セキュリティで保護された計算機の中に保存し、個人情報と隔離して、個人を特定できないよう ID 化して取り扱う。さらに、最終的に数値化されるため個人が特定できない形となるが、計測データのネットワーク伝送の際には、暗号化や個人 ID 化を徹底し、取り扱いに十分に注意し、研究終了後は上記指針に則って速やかに廃棄する予定である。なお、ヒアリングについては、特に個人的な体験について語ってもらうことから、被験者から要請があればいつでも取りやめる事が出来る事を冒頭に説明した上で行う。人を対象とした研究の倫理上の問題や安全性などに関しては、必要に応じて外部の有識者を含めて議論する事も検討する。

<主に以下の研究などが該当>

1. 個人情報（アンケートやヒアリング調査、人名・不動産情報等の記載のある台帳など）を扱う研究
2. フィールドワークを行う研究（国内外の文化遺産の調査等も含む）
3. 遺伝子組み換え実験、動物実験等を行う研究

該当しない場合は、「本研究は〇〇なので該当しない」と記入すること
空欄だと「不備」とみなされる場合があるので注意

申請者登録名

中央 太郎

4.申請書について

4.【研究遂行能力】研究を遂行する能力について、これまでの研究活動をふまえて述べてください。これまでの研究活動については、網羅的に記載するのではなく、研究課題の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜引用して述べてください。本項目の作成に当たっては、当該文献等を同定するに十分な情報を記載してください。具体的には、以下(1)～(6)に留意してください。

- (1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を明らかにしてください。査読のある場合、採録決定済のものに限ります。）
著者、題名、掲載誌名、発行所、巻号、
pp 開始頁～最終頁、発行年を記載してください。
- (2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説
- (3) 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにしてください。）
著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。）
- (4) 国内学会・シンポジウム等における発表
(3)と同様に記載してください。
- (5) 特許等（申請中、公開中、取得を明らかにしてください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記載してください。）
- (6) その他（受賞歴等）

自己アピール項目

研究遂行能力をアピールするため、

- ・申請者のこれまでの研究概要（活動と成果）→本研究計画に関連した研究活動を中心に記述
- ・関連する研究業績（論文等）→上記研究活動と関連するものを記載

記入方法の例示（網羅的に業績をあげるだけは望ましくない。本研究に関わりの深いものを中心に。）

『Aの〇〇に関する研究』

研究活動とその成果の概要 →研究手法や調査実績もアピール

自身の役割

主要業績

[1] 中央太郎, 中央団子, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇: 尺度ツールを応用する〇〇評価に関する実証的実験, 日本××学会誌, Vol. 29, pp. 650-657, 2018. (査読有)

『Bの△△とAへの応用可能性に関する研究』

研究活動とその成果の概要 →研究手法や調査実績もアピール

自身の役割

主要業績

[2] T. Chuo, A Chuo :Evaluating the XXXX between criteria for equality within and outside one's personal domain, Journal of Personality and Social Psychology, Vol. 26, pp. 120-130,

研究遂行能力をアピールするため、決定済みの受賞歴や研究会等での発表は「その他」へ記載

『その他の業績』

[3] 中央太郎, Bの△△に関する研究, 〇〇学会奨励金, 2019年, 500千円

[4] 中央太郎, 〇〇大学△△学部奨励賞, 2018年

[5] 中央太郎, 中央花子, Bの△△に関する研究, 〇〇研究会若手部会, 〇〇大学, 2018年12月1日

主な審査方針Ⅲ: 研究計画を遂行する能力が優れていること。

4.申請書について

5.【研究者を志望する動機、目指す研究者像、アピールポイント等】

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、研究者を志望する動機、目指す研究者像、アピールポイント等を記入してください。

記入方法の例示

(指示書きに沿って、各項目についてもれなく記載すること)

自己アピール項目

■研究者を志望する動機

■目指す研究者像

■自己の長所・アピールポイント

研究者になりたい気持ち・優れた研究者になる可能性を存分にアピール！

- 現在の指導教員が作成する「評価書」に、本項目に連動して記載する項目があるので、指導教員への評価書依頼は、時間に余裕をもって行うこと。(作成した申請書類を指導教員に渡し、記載内容が連動するように依頼すること)
- 受賞歴(時期・団体名)、留学先などは具体的に記載
- 国際的な研究活動や留学の実績・希望なども記載
- 特色ある学外活動の例：資格取得・ゼミ長・研究会での発表・ボランティア、英語の輪読会参加の経験などのエピソード(学術的なものが望ましい)

重要!

主な審査方針Ⅰ：学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。 ※DC は研究経験が少ないため特にここを重視して評価
主な審査方針Ⅲ：研究計画を遂行する能力が優れていること。

申請者登録名 中央 太郎

4.申請書について

指導教員作成頁

WEB 入力です。もれなく入力をしてください

日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書

評価書作成者	氏名	中央 太郎 (自動表示)		
	所属機関名	中央大学 (自動表示)		
	部局名	〇〇 (自動表示)	部局種別	研究科 (自動表示)
	職名	教授 (自動表示)		
申請者との関係	申請者との関係を具体的かつ詳細に入力してください。 例：現在の受入研究者、採用後の受入研究者等			
<p>申請者の研究における主体性、発想力、問題解決能力、専門知識・技量、コミュニケーション能力、将来性などについて。また、申請者の研究課題遂行能力及び我が国の学術研究の将来を担う人材となりうるかなどの資質について。</p> <p>(1) 研究姿勢・忍耐力：申請者の研究に取り組む姿勢は大変意欲的であり、学部生の段階から〇〇学の研究者を目指して一貫して努力を重ねてきた。その成果は、研究業績欄に示された論文や学会発表の数と内容を見れば明らかである。学部3年次で国内学会発表、4年次で国際学会発表という驚異的に早い研究ペースは、着実かつ計画的に研究活動を進めて来たからこそ実現できたものである。このようなところに、申請者の優れた研究姿勢や研究に取り組む際の忍耐力が示されている。</p> <p>(2) 専門的知識・技量：〇〇学の専門的知識・技量に関しては、申請者は、〇〇〇〇に関連する国内外の研究論文を積極的・継続的に収集して読むことによって、研究の到達点と課題を最新のものにするための努力を怠っていない。博士前期課程入学後も、学部時代に引き続いて、国内学会発表(日本〇〇会等)や国際学会発表(Conference of 〇〇)をおこない、研究関心を同じくする研究者や他分野の研究者との交流を通じて、専門的知識・技量をよりいっそう高めようとしている。そのようにして得られた〇〇学の専門的知識・技量は、ティーチング・アシスタントとしての学生指導においても遺憾なく発揮されており、学部生からは非常に信頼され、かつ頼りにされる存在となっている。</p> <p>(3) 着想力・創造力：申請者が取り組んでいる××は、〇〇学的な課題であると同時に、△△における●●的な課題でもある。申請者は「△△委員」(△△委員会)や講師など、△△と深くかかわりながら、そこでの□□の意識や行動を押しえつつ研究を進めてきた。学部時代には、■免許も取得しており、まさに「▲▲▲▲(応募者のアピールポイント)」の精神を体現している。このような〇〇学研究と△△を往還するような研究スタイルは、現代の〇〇学研究に強く求められているものであり、その研究成果が非常に期待されるものである。このように申請者は、自らの実践的な活動にもとづいて、〇〇の研究を着想しただけでなく、従来の〇〇研究を転換するような視座を持ち合わせている。これまでは、マイナス面に焦点を当てて研究してきた〇〇のプラス面に注目したのである。このような発想の転換は、非常に創造性に富んでおり、多くの新たな研究知見が見出されて行くにちがいない。これらのことは、申請者の研究の着想力・想像力が極めて優れていることを示している。</p> <p>(4) コミュニケーション能力：申請者は、学会発表やゼミでの発表に際して、自分の研究を他者に対して伝えるという点で非凡な才能を有している。作成されたスライドやレジュメ、ポスターは極めてわかりやすく、洗練されている。常に他者を意識し、相手に伝わりやすいものになっているかどうかをチェックしながら資料を作成している。研究者として大成していくためには、このようなことは非常に重要である。日常的にも、申請者は何事にも真摯に取り組む、他者の意見に耳を傾け、謙虚さを忘れない。明るく誠実な人柄であり、他者と協調的で、ゼミ員からの信頼も厚い。これらは全てコミュニケーション能力にかかわるものであり、申請者が今後研究を続けていくときに役立つにちがいない。</p> <p>(5) 将来性：学部3年次での国内学会発表から数えると、申請者の研究歴は4年目に入ったところである。これまでの研究実績は、学術雑誌等に発表した査読付き論文が〇本(うち1本は印刷中)、国際会議での発表が〇回、国内学会での発表が〇回、シンポジウムでの話題提供が〇回である。博士前期課程2年次としては、かなり水準の高い研究実績である。それを成し遂げたのは、研究者として必要な能力を十分に兼ね備え、意欲的に研究活動をおこなってきた結果である。今後も、引き続き着実に研究を進めていき、そうした研究活動の積み重ねを基盤として、将来的には、自らの〇〇学研究成果を学校教育の現場に応用していくような「▲▲▲▲」を具現化したスケールの大きな〇〇学者になっていくことが十分期待できる。</p> <p>(6) 研究課題遂行能力：申請者が博士前期課程1年次に立てた年間計画の柱の一つは、「◇◇◇◇」だった。年度末に確認したところ、その目標を達成したとのことだった。新たな環境に慣れていかなければならない状況のもとで、高い目標をやり遂げたことは評価できる。このような実行力は、申請者が優れた研究課題遂行能力を有していくことを示している。</p> <p>以上を総合すれば、申請者が、〇〇学の分野の将来を担う有為な人材であることは明らかである。申請者の優れた能力と強い意欲が、我が国の〇〇学研究成果の未来を切り開いていくであろう。</p>				

4.申請書について

指導教員作成頁

WEB入力です。もれなく入力をしてください

申請者の研究者としての将来性を判断する上で特に参考になると思われる事項について。

(例：特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など。)

(1) **特に優れた学業成績**：申請者がこれまでに研究活動に邁進している源になっているのは、◆◆にある。自己評価欄に記されているように、「××××」が基盤となって、申請者は「▲▲▲▲」を獲得し、旺盛な研究活動を展開してきたのである。大学進学後には、GPA〇〇という優秀な成績を収め、△△会奨学生（給付）や△△奨学基金（給付）にも採用された。大学院進学後にも、成績優秀によって中央大学大学院給付奨学金奨学生（給付）に採用された。これらは、申請者の学業成績が極めて高く、また意欲的に勉学したこと証である。こうしたこれまでの経験は、申請者の今後の研究活動のエネルギーとなり続けるにちがいない。このような優れた学業成績は申請者の基本的能力の高さを示すものであり、研究活動を推進していく原動力となるにちがいない。

(2) **受賞歴**：申請者は、学部時代から活発に学会活動をおこなってきた。学部3年次（〇〇学会）と博士前期課程1年次（Conference of 〇〇）の国際学会発表に対して、公益社団法人〇〇学会参加旅費補助金を受けた。このような受賞は、申請者の研究発表の内容が高い水準のものであり、豊かな将来性を有していると認められた証である。

(3) **留学経験**：申請者は、学部3年次に××に留学し、現地の小学校において「〇〇法」の授業などをおこなった。その活動が評価され、地域新聞（神奈川県△△市）に、そのときの様子が紹介された。それ以外に、申請者は、国際会議において5回のポスター発表をおこない、3カ国での海外活動を経験している。これらの海外・留学経験によって、外国人研究者との交流ネットワークが構築されており、申請者の今後の研究活動を発展させていく基盤となっていくにちがいない。

(4) **特色ある学外活動**：申請者は、「△△委員」（△△委員会）や講師など、学部時代から一貫して△△との深いかわりを持ってきた。学部時代に、中学生を対象とした〇〇の調査研究をおこない、学会発表をおこなうことができたのも、こうした学外活動が基礎にあったからである。このように△△とのつながりを意識しながら研究活動を進めてきたことは、研究者として必要とされる計画性において優れた資質を持っていることを示している。申請者は、2015年度から、「公益社団法人日本〇〇学会 若手ワーキング」の代表に就任した。若手研究者のリーダーとして、この分野を牽引していく役割を果たしていくことが期待される。これからの研究者に必要とされるのは、国内外の研究者と共同しながら当該分野の研究活動を進めて行くことである。申請者が、「公益社団法人日本〇〇学会 若手ワーキング」代表としての活動を通じて、共同的な研究活動に不可欠な経験と能力を養っていくにちがいない。

以上のことから総合的に判断して、申請者は研究者としての適性と能力を十二分に兼ね備えていると判断できる。△△に根付きながら研究活動を進める一方で、その成果を国内外での学会発表や学会誌の論文として積極的に発信していく姿勢は高く評価できる。評価者がこれまでに指導してきた博士後期課程の学生の中で上位5%に位置する学生である。博士後期課程の研究活動を通じて、今後も精力的に研究成果を蓄積し、〇〇学分野の研究をリードする若手研究者として活躍すると考えられる将来性溢れる逸材である。

5.チェックリスト

	チェック項目		チェック
1	受入研究機関	受入研究機関（博士課程在籍機関）は国内の大学か。	<input type="checkbox"/>
2	申請資格	申請資格を満たしているか。PD・RPDが学位取得(見込含)しているか。DCは採用時点で博士課程に在学し、申請資格相当の年次に進学しているか。	<input type="checkbox"/>
3	専門分野	申請書情報⑥専門分野は、正しく漢字等で入力されているか。	<input type="checkbox"/>
4	学歴と博士の状況	申請書情報の⑨学歴、⑩博士の状況が正確に記載されているか。卒業(予定)・入学(見込)の年月日に矛盾はないか。 研究科名、専攻名は正確に入力されているか。	<input type="checkbox"/>
5	現在の研究指導者採用後の受入研究者	申請書情報の⑮現在の研究指導者（受入研究者）⑯採用後の受入研究者について、所属機関、部局、職名等は正しいか。学籍上の指導教員か。	<input type="checkbox"/>
6	採用後の申請者所属 研究科正式名	申請者自身の所属部局（学籍上の部局）は正しいか DC1・DC2 →○○研究科 PD・RPD →○○学部	<input type="checkbox"/>
7	様式改変	令和3年度(2021年度)採用版の書類で作成しているか。（昨年度と様式が変わっています） 様式を経変（枠の大きさ変更、頁追加、ヘッダー外れ）をしていないか。	<input type="checkbox"/>
8	文字化け等	文字化けや図表のレイアウト、項目番号の飛ばし・重複はないか。	<input type="checkbox"/>
9	鮮明さ	PDFをモノクロ印刷した時に、不鮮明な箇所はないか。（特に図表内の文字、記号）	<input type="checkbox"/>

6.その他

【Web サイト】

- (1) 日本学術振興会 特別研究員のページ
<https://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html>

- (2) 中央大学 HP
2021 年度採用分 日本学術振興会特別研究員 (DC・PD・RPD) の募集について
(ID・パスワード発行申請書はこちらから)
<https://www.chuo-u.ac.jp/research/rd/grant/news/2020/02/47685/>

【学内のお問合せ先】

特別研究員募集全般、多摩・市ヶ谷キャンパスでの申請支援

■ 研究助成課 (多摩キャンパス 1 号館 4 階)

電話 : 042-674-2159/2139

メール : 042kaken-grp@g.chuo-u.ac.jp

後楽園・市ヶ谷田町キャンパスでの申請支援

■ 研究支援室 (後楽園キャンパス 3 号館 10 階)

電話 : 03-3817-1679

メール : kaken-shinsei-grp@g.chuo-u.ac.jp